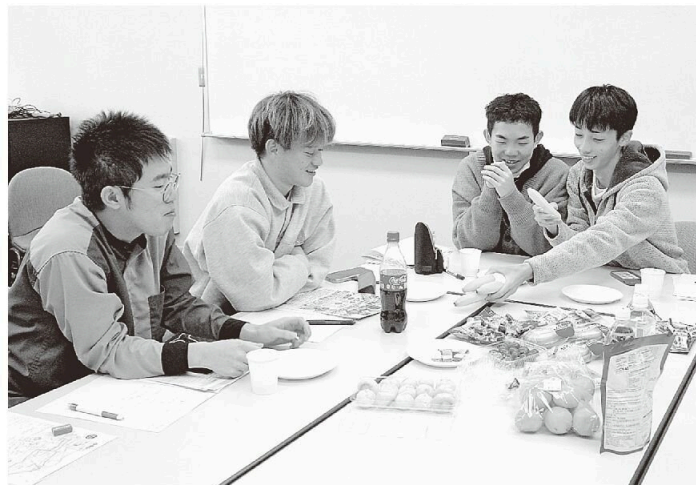


県立大が運営初参加

来年2月25日に総社市を発着点に開かれる「2024そっじゃ吉備路マラソン」(岡山県、市、市教委、山陽新聞社でつくる実行委、岡山陸上競技協会主催)を盛り上げたいと、県立大(同市窪木)が運営ボランティアとして初参加する。学生16人が給水所の一つを担当することになっており、ランナーの完走を後押しできるよう準備を進めている。(寺尾彰啓)



給水所で提供する飲食物などについて意見を
出し合う県立大生=13日、同大

学生16人 給水所担当

同大はこれまで学生が個々にボランティアに加わることがあったが、受験シーズンに重なることから大学としては見送っていた。本年度は1993年の開学から30周年の節目に当たるため、地域への感謝と貢献を掲げて大学での参加を決めた。取り組み16人はいずれも、ボランティアを希望した現代福祉学科の1年生。コースに計10カ所設けられる給水所の一つ、第4給水所(岡山市北区加茂)の運営を担う。ハーフ(ランナー)の定員5500人の7・9キロ、フル(同2500人)の7・9キロと31・8キロの地点に当たり、最大延べ1万500人が通過する。学生たちは給水所で

提供する飲食物に加えた意見が出た。今後もし、ランナーの応援方
法も検討することになる。

提供する飲食物に加えた意見が出た。今後もし、ランナーの応援方
法も検討することになる。

大会サイトの応募フォームから申し込む。

大会は新型コロナウイルス禍前まで行われていた全7種目が5年ぶりに復活し、大勢のランナーの参加が期待される。大会長の片岡聡一総社市長は「一人でも多くのボランティアに力を貸していただきたい」としている。

問い合わせは実行委事務局の総社市スポーツ振興課(0866@8367)。

来月11日
ボランティア募集

そっじゃ吉備路マラソンの実行委は、大会の運営ボランティアを募集している。12月11日まで。

ランナーの受け付けや手荷物預かり、コース沿道の警備、給水所運営に当たるほか、ランナーに並走し鼓舞する「完走サポートランナー」として活動する。15歳以上が対象で、保護者同伴なら15歳未満も可。定員は2500人。帽子、ポンチョ、大会パンフレット、軽食の提供がある。